

下田の未来を創造（想像）する

下田市立下田中学校 二年 勝亦心

下田は、コバルトブルーに輝く海が美しい街です。また、豊富な海の幸に恵まれ、海鮮の美味しい街としても有名です。そんな下田がこれからどのような街になるのか、「自然について」、「産業について」、「地域のコミュニティについて」、「歴史について」の四つの側面から考えてみました。

一つ目は「自然について」です。先にも述べたとおり、下田は海の綺麗な観光地として有名です。中学校にサーフィン部という部活があるくらい、マリンスポーツが有名でもあります。海水浴や釣りなどを楽しむために訪れる観光客も少なくありません。そういった大勢の観光客が来ることにより、「海のゴミ問題」は避けられない問題でしょう。ペットボトルやポリ袋などのプラスチック製品は、海に揉まれて「マイクロプラスチック」という直径五ミリ以下のごく小さな破片となります。マイクロプラスチックとなった破片は海中を漂い、海洋生物の体に蓄積されます。蓄積された破片のせいで死んでしまう生物もいます。また、マイクロプラスチックまで細かくはならなくとも、ふわふわと海の中を漂うポリ袋を餌と勘違いして食べてしまう海洋生物も少なからずいます。このような「海のゴミ問題」をなくすためにも、いつか「定期的にゴミ拾い活動をする」という習慣を作ったり、「海のゴミでアートを作ろう」といった内容の授業を採り入れたりなどして、少しでも多くの人に現状を知ってもらおうという活動をしたいです。

二つ目は「産業について」です。皆さんご存知のとおり、下田は金目鯛の水揚げ量が日本一の町です。他にも、海産物なら伊勢海老やひじき、わかめなど。農産物ならニューサマーオレンジやワサビ、クレソンなど。自然が育む新鮮な特産品が有名です。他にも、リゾートや海水浴などの観光業も栄えています。将来の下田にも、観光客は多く訪れるでしょう。さらに観光客を増やすために、私は「アニメ」を活用することを提案したいです。日本のアニメーションは世界に誇れる「芸術」です。下田を舞台として誘致することで、聖地巡礼のために下田を訪れる観光客は増えるはずです。

三つ目は「地域のコミュニティ」についてです。下田では少子高齢化が進んでおり、多くの人口を年配の方々が占めています。人は年齢を重ねるにつれ、膝や腰が弱っていきます。そのせいでなかなか外へ出られず、地域のコミュニティがどんどん形骸化していきます。しかし、ICT 技術を活用し、「リモート座談会」や「おすそ分け配達ドローン」などを作ることによって、地域の関わりを絶えず続けることができると考えます。他にも、科学技術の進歩によって楽に歩くことができるような機械を作ることができたなら、その地域の人全員が参加する行事を行うこともでき、地域のコミュニティが活発になるでしょう。

四つ目は「歴史について」です。下田には深い歴史があります。マシュー・ペリー率いる黒船艦隊により日米和親条約が結ばれ一番初めに開港したことや、日米修好通商条約を結んだタウンゼント・ハリスが訪れたこと、日露和親条約が結ばれたことなど、下田には深い

歴史がたくさん詰まっています。しかし、時代とともに下田の歴史は日本史から薄れていってしまいかもしれません。この歴史を将来長きにわたって語り継ぐため、下田の歴史ゆかりの地や資料館、図書館などで下田の伝説や歴史を紹介したいです。具体的には、歴史ゆかりの地には、その土地で起こったことを看板や動画にして紹介したり、「下田歴史めぐり」のようなツアーを活発に行ったりすることです。

下田は全国でも有名な観光地の一つです。だからこそ、将来起こる可能性のある環境問題や町の衰退化等の問題を未然に防ぐために、今から行動を起こさなければならないのではないのでしょうか。多くの人が地域を思い、行動しようという心があれば、下田の未来はきっと明るくなると考えます。